

没後70年記念

相馬御風の

うたのころ

—御風が詠まずにはいられなかった短歌の世界—

糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》所蔵資料を中心に、約30点を紹介します。

2020 12/12 (土) ▶ 2021 3/21 (日)

開館時間 10:00 ~ 18:00 (入館は 17:30 まで)

休館日 月曜日 (1/11 は開館)、12/28 月 ~ 1/4 月、1/12 日

入館料 一般 500 円、学生 [高校生以上] 300 円、中学生以下無料
※ 20 名以上の団体は、各料金から 2 割引

主催 にいがた文化の記憶館、新潟県、公益財団法人 新潟県文化振興財団、新潟日报社

共催 新潟日報美術振興財団、NIT、新潟放送

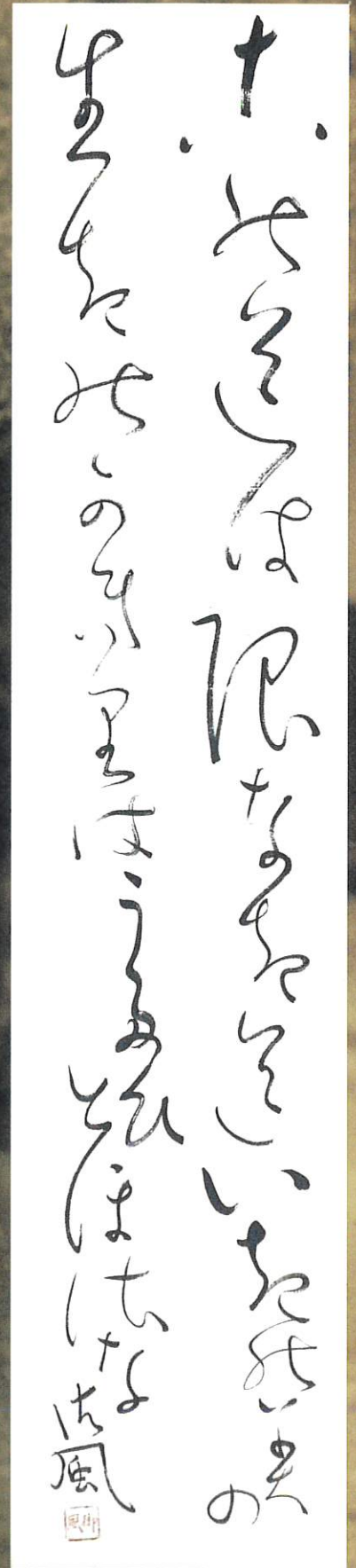
協力企業 田村紙商事株式会社

協力 故 吉沢久子氏

展示協力 糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》

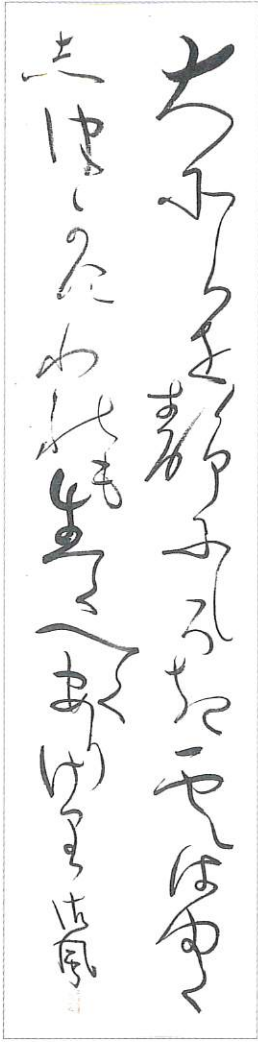
【ご来館を予定されている方へのお願い】

- ・展示室内ではマスクの着用をお願いします。 ・ご入館前の手指消毒や手洗いに協力ください。
- ・展示室内では互いに適切な距離を保つよう、お願いいたします。また、室内での会話はお控えください。
- ・発熱や風邪の症状がある方は、来館をお控えください。
- ・「新潟県新型コロナお知らせシステム」を導入しました。新潟県公式LINEとお友達登録を行い、当館の展示室入口に掲示しているQRコードを読み取ってください。



相馬御風「この道は限なき道いきのみの生きのかぎりはうたひとほさな」個人蔵

—御風が詠まずにはいられなかった短歌の世界—



相馬御風 軸
「大ぞらを静にしるき雲は
ゆくしづかにわれも生くべ
くありけり」
御風の人生観を示す歌として
知られ、この歌の揮毫作
品は多い。
チラシ裏面掲載の資料はすべて
糸魚川歴史民俗資料館
《相馬御風記念館》蔵

相馬御風 第一歌集『睡蓮』東京純文社
初版は1905（明治38）年発行
御風が初めて出版した書籍。表紙画と挿絵、装丁
は洋画家の和田英作（当時、東京美術学校教授。
題字は釈真戒（御風が崇拝した真言宗の僧・釈雲
照の弟子）による。歌集は好評で、版を重ねた。



歌は詠まずにはいられないから詠むものである。

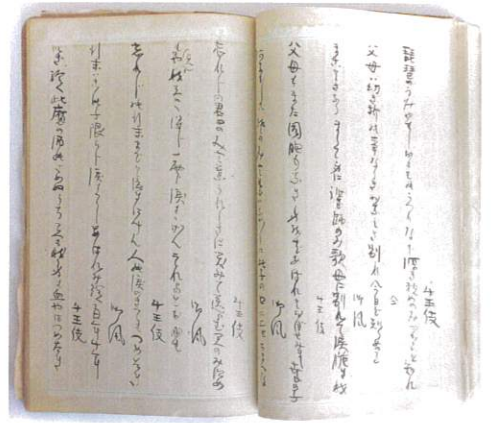
1916（大正5）年、33歳で東京での文壇生
活を捨てて郷里糸魚川に退住、良寛研究に着
手します。町の有志によって御風を指導者とす
る短歌結社「木蔭会」が組織されると、再び旺盛
なる意欲をもって歌作にとどめました。御風は
1926（大正15）年に発刊した『御風歌集』の
はしがきで「歌は私の最も純真な表現」と述べて
います。御風にとって短歌とは真実の自己表現
だったのです。本展では、糸魚川歴史民俗資料
館《相馬御風記念館》に伝わる資料を中心と
した約30点をとおして、御風が詠まずにはいら
れなかった歌の世界、そのこころを展観します。



相馬御風 色紙自画像（月の兎図）
「良寛が月の兎のうたがたり子にきかせつ
つ爐に成はつけ」

相馬御風「歌を作る目的」

相馬御風 自筆歌稿「伊夫伎の狹霧」
1901（明治34）年頃
御風の歌の師・下村千別（千王伎）との贈答歌も
収められている。



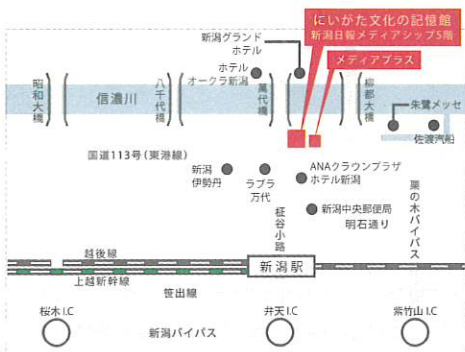
糸魚川町に生まれた相馬御風（1883〜1
950年）は、2020年に没後70年を迎えま
す。早稲田大学校歌「都の西北」や「ガチーシヤの
唄」の作詞で知られ、詩人や文芸評論家として
活躍した御風が最初に文学の道に入ったのは
11歳の時でした。地元（の俳人）歌人の手ほどきを
受けて俳句や短歌を詠み始めた御風は、高田
中学校現高田高校時代の国語教師・下村千
別（千王伎）の下で本格的に短歌を学びました。
中学卒業後に与謝野鉄幹主宰の「新詩社」
に入会。東京専門学校高等予科（現早稲田大
学）在学中、共に新詩社を脱退した前田林外や
岩野泡鳴らと「東京純文社」を興し、雑誌「白百
合」を創刊しました。大学卒業後は恩師・島村
抱月によって再刊された「早稲田文学」の編集に
携わり、短歌よりも自然主義評論や詩、小説の
創作活動に意欲的な10年間を過ごしました。



木蔭会第一回総会（前列中央・御風）
1928（昭和3）年10月27日
「木蔭会」は御風を指導者とする短歌結社。

生の営みの苦しみの底からこそ真の私達の歌が生れなければならぬ。

相馬御風「仕事と歌」



- 交通のご案内
 - 新潟駅から タクシー約5分 徒歩約15分
 - 新潟空港から タクシー約15分
- メディアシップ第1・第2駐車場（24時間営業）のご案内
 - 第1駐車場【メディアシップに隣接】
 - 料金 220円/30分（夜間最大1,000円）
 - 台数 80台（3〜4階、一部月極あり）
 - 第2駐車場【メディアプラスに隣接】
 - 昼間料金 200円/30分（昼間最大700円）
 - 夜間料金 200円/60分（夜間最大300円）
 - 台数 110台

⚠ 開館日の開館時間以外は、メディアシップのエレベーターは5階に止まりません。ご来館の際は、あらかじめ開館日と開館時間をお確かめください。尚、本企画展会期中の休館日は、このチラシのオモテ面に掲載しています。

担当学芸員による解説会

12/19 日、1/16 日、2/20 日 3回とも同じ内容です。
各回 14:00〜15:00（予定）
申込不要/要当日観覧券

※社会情勢の変化や新型コロナウイルスの感染状況の変化等により会期や開館時間、解説会の予定が変更することもあります。記憶館ホームページや Facebook 等で最新情報をご確認の上、ご来館くださいますようお願いいたします。

[次回展覧会のご案内]

日本初の女流脚本家・水島あやめ
2021. 4/6 [火] ~ 7/11 [日]

※展覧会名やイベント名は仮称です。会期や事業の内容などは変更することがあります。

いがた文化の記憶館 で検索



いがた文化の記憶館

〒950-0088 新潟市中央区万代3-1-1
新潟日報メディアシップ5階
TEL. 025-250-7171 FAX. 025-250-7040
URL. http://nmmc.jp

割引券
一般・学生
観覧 料金
（切取不可）